



おかやま環境ネットワーク

NO.78
2015.3

NEWS

発行:公益財団法人おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

おかやまホテルフォーラム報告

生物や自然環境保全のあり方、生物と人間生活との関係に関わる講演や、地元団体によるホテル保全活動報告、倉敷市の「生物多様性地域戦略」制定に関する情報提供をとおり、自然環境保全活動の交流をすすめました。また、地元「酒津のホテルを親しむ会」が保全に取り組む酒津公園も視察しました。

◆日時：12月6日（土）

10時30分～12時30分

現地見学：13時30分～14時30分

◆会場：倉敷イオンホール、見学：酒津公園

◆参加者：111名

◆内容：

- ①来賓挨拶：倉敷市長・伊東香織氏
- ②基調講演：伊藤國彦氏（岡山県立大学名誉教授）
「昆虫と人間」
- ③会場内展示案内：故・梶田博司氏（元川崎医療福祉大学教授・おかやま環境ネットワーク理事）所有の写真、資料等展示、安藤豊氏のホテルクラフト作品展示、酒津のホテルを親しむ会所有のホテル・カワナ・機器等の展示
- ④報告：酒津のホテルを親しむ会長・武内立爾氏「倉敷市街地におけるホテル復活への課題と提案、年間活動報告」
- ⑤報告：倉敷市環境政策課自然保護係・三宅康裕氏「倉敷市生物多様性地域戦略について」
- ⑥質疑応答：コーディネーター・青山勳代表理事
- ⑦酒津のホテルを親しむ会のホテルの詩の合唱
- ⑧現地視察：酒津公園



おかやま環境シンポジウム報告

私たちは干潟から豊かな水産資源の恩恵を享受し、身近な里海としてふれあい、様々な利用してきました。一方で、干拓や埋め立てが盛んに行われ、それは人間生活の持続性を壊すことにつながります。今回は、「干潟の自然環境」をテーマに、干潟の役割や機能、その重要性、保全等について考えました。

◆日時：1月31日（土）10時～12時30分

◆会場：オルガ5階スカーレット

◆参加者：47名

◆内容：

- ①基調報告：『干潟の役割と機能』
里海づくり研究会議事務局長・田中丈裕氏
- ②事例報告：『乙子湿地の活動から見えて来た児島湾干潟の400年～岡山市立太伯小学校5年生の2014年の授業より～』
児島湾研究会・森千恵氏
- ③事例報告：『高島干潟における調査活動の取り組みとその意義』
岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏
- ④事例報告：『高梁川河口干潟と笠岡湾干潟での取り組み』
井原市立高校教諭・坂本明弘氏
- ⑤参加者との意見交換：コーディネーター・白井浩子理事



ESD リレーシンポジウム報告

『食・農・環境を通じた 持続可能性を考える』

- ◆日時：10月21日（火）13時～15時30分
- ◆参加：176名
- ◆会場：岡山コンベンションセンター
- ◆趣旨：農林水産物の生産現場に関する関心や理解を深め、我々の食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることなどに関する理解を深めることを目的に開催しました。
- ◆概要：最初に食糧問題全般に関する基調講演と、次に岡山県内の様々な立場に関わる方々から話題提供を受け、最後にパネルディスカッションとして、会場からの質問に各パネラーからの回答がありました。
- ◆基調講演『地球規模で考える食糧問題』
服部幸應氏（学校法人服部学園理事長）
- ◆事例報告『農山漁村交流及び食育等に係る農林水産省の取り組み』
長谷川博章氏（農林水産省中国四国農政局次長）
- ◆事例報告『おかやまコープの地産地消、食と農を守る取り組み』
三宅晴久氏（生活協同組合おかやまコープ常務理事）
- ◆事例報告『環境に優しい稲作～アヒル・アイガモ農法・木村式自然農法の取り組み』伏見拓也氏（岡山県立興陽高等学校農業科教諭）加藤孝則さん・古好徳浩さん（同農業科生徒）
- ◆パネルディスカッション
コーディネーター：千葉喬三氏（就実学園理事長）
パネラー：上記講演・報告者全員
- ◆閉会挨拶 青山勳氏（おかやま環境ネットワーク代表理事・岡山ESD推進協議会会長）



会場の様子

体験プログラム報告

『第3回アマモ再生教室』

- ◆日時：10月17日（金）10時～12時
- ◆参加：23名
- ◆講師：森中憲治氏・神島見崎里浜づくり代表
- ◆会場：見崎公会堂
- ◆内容：アマモの種の植え付け作業
- ◆参加者感想
 - ・発芽するのが楽しみです。アマモが茂っている海を夢見て、1月も頑張って早起きして来ます。
 - ・アマモの生態や育ち方など、知らないことだらけだったので、このような機会があってよかったと思います。今日植えた種を大切に育てたいと思います。
 - ・小さな種なので、神経を使いました。芽が出るのが楽しみです。
 - ・アマモの苗づくりに参加できてうれしいです。育った苗を海に植えるのが楽しみです。



講師レクチャーの様子



種の植え付け作業

体験プログラム開催報告

『宇甘川いきもの調査会』

- ◆日時：10月26日（日）9時～15時
- ◆参加：56名
- ◆講師：斉藤達昭氏・岡山理科大学理学部准教授
中田秋穂氏・淡水魚研究会
- ◆会場：岡山市北区御津紙工・河内橋下流河川敷
- ◆内容：宇甘川・大野川いきもの調査
- ◆参加者感想

- ・絶滅危惧の魚や、カゲロウ、ヤゴ、カワゲラなどの水生昆虫もたくさん見ることが出来ました。何より、自分で川に入って網で捕まえる楽しさを味わえました。
- ・普段、淡水魚や水生昆虫（川虫）などの生態を観察することができないから、とても貴重な体験ができてよかったです。先生の説明はとてもわかりやすかったですし、いのししカレーもおいしかったです。ありがとうございました。



調査の様子



集合写真

『実り豊かな秋をまなび隊』

- ◆日時：10月31日（金）8時～16時
- ◆参加：44名
- ◆講師：長谷部勝己氏（森林インストラクター）
- ◆行先：岡山県立森林公園（苫田郡鏡野町上齋原）
- ◆内容：森林インストラクター指導のもとでのトレッキング
- ◆参加者感想

- ・何とか雨にもあわず、大変良い一日でした。我が田舎では見たこともない植物や木々、なかなか覚えるのは難しいのですが、5～6個は覚えることができましたと思います。椿・榎・楸（ヒサギ）・柊（ヒイラギ）など字の読み方クイズ等、楽しい時間でした。
- ・久しぶりに大自然にふれて楽しい一日でした。知らない樹木の勉強もできて、わかりやすい資料を用意いただき、うれしく思いました。
- ・紅葉の時期に森林植生を観察させてもらってよかったです。今年は紅葉の仕方が普通ではない様子を体感しました。植物の多様性（紅葉の時期のばらつき、落葉のばらつき等）を勉強しました。
- ・自然に接する機会があり、非常に楽しかったです。樹木にも親しみがわき、勉強になりました。
- ・日頃、山歩きでよく見かける木々も名前やいわれの説明があると、身近に感じられるようになった。近くに住む孫娘にも教えてやりたい。また、自然の中で遊ばせ、その大切さを教えてやりたいと思う。近年の天地異変に心を痛めている。地球が壊れている様な気分すらする中、今回は自然の良さやありがたさを考える機会となった。



集合写真

体験プログラム開催報告

『旭川かいぼり調査』

- ◆日時：11月8日（土）8時30分～15時
- ◆講師：岡山理科大学、岡山淡水魚研究会の皆様
- ◆参加：32名（全参加者：347名）
- ◆内容：岡山市北区・竹枝小学校横の旭川河川敷で、旭川の環境保全や自然再生につなげるため、干しあげた川で生きもの調査・河床調査と、採集したいきもの解説があり、最後に全員で川底の石を返し、生きものすみかとなるすきまを作りました（川を耕しました）。当日、24種類の魚が確認されました（内アカザ872匹）。



◆参加者感想

- ・初めての体験でとても楽しかったです。普段は水の底にあり見ることのできない石の下や、その下に棲んでいる生き物を実際に自分で触って確認できたので、有意義でした。地元の方々をはじめ、各種団体や岡山理科大学の学生さんたちが親切丁寧に対応してくださったのも印象に残りました。
- ・今回は自然と触れ合い、守る活動にもなったと思うし、参加者の年齢層も広く、交流という面でもいい活動になったと思う。これからも「自然を守る活動」というより、「自然を守るための具体的な活動」を続けていければいいと思った。また今回のような自然（魚など）の活動が大好きなので、次回もよろしくお願いします。
- ・とても楽しかったです。ギギやドンゴ、ムギツクなど、魚が沢山とれて感動しました。しかし全体的にアカザの捕獲量は減ってきているので、このような活動を通して、多くの人に興味を持ってもらい、みんなで守っていくことが大切なのだと思います。とてもいい経験ができました。

『リサイクルを学び隊』

- ◆日時：11月26日（水）8時～16時
- ◆参加：24名
- ◆行先：尾道市コープCS ネットエコセンター
- ◆内容：尾道市コープCS ネットエコセンターにて、エコセンター、物流施設、太陽光パネルを見学しました。



◆参加者感想

- ・従業員の方が一生懸命作業されている姿を見て、とても感動しました。チラシをリサイクルしたり、店舗にある回収箱へペットボトル、トレー、玉子パックなどを入れたりすることを続けていきます。このような企画に行きたくても個人ではなかなか参加できないので、今回企画していただき、ありがとうございました。
- ・資料を見たことはありましたが、実際に見てみると、作業はとても大変そうで、手際が良くて驚きました。センター内もとても清潔でした。
- ・機械で行っているかと思いましたが、やはり、人の手がかかっているとわかり、大変だと思いました。普段の暮らしの中でできることを続けたいと思います。



市民のための環境講座開催報告

- ◆テーマ：岡山県における水産業の現状と課題
～瀬戸内海はきれいになったの？
豊かになったの？～
- ◆講師：NPO 里海づくり研究会議理事
田中丈裕 氏



田中丈裕 氏

- ◆日時：10月4日（土）10時～12時
 - ◆場所：オルガ5階スカーレット
 - ◆参加：22名
 - ◆内容：1. 世界の漁業・我が国漁業の動向（漁業・養殖業の生産量・生産額の推移）、2. 我が国における瀬戸内海漁業の位置付け（海面漁業生産額の約1/5を占める）、3. 瀬戸内海・岡山の海の特性（狭い海：800平方km、約80の島、約半分は水深10m以下、夏：高水温・冬：低水温、三大河川の影響：豊富な栄養塩・低塩分）、4. 岡山の海の変遷（昭和20年代までの岡山県海面のアマモ場の総面積は約4,300ha、干潟の総面積は約4,000ha、その約9割が消滅。岡山県沿岸域における主な出来事の紹介）、5. 沿岸海域が抱える新たな課題・問題点（海水温の上昇、貧栄養化、貧酸素水塊の発生、底質の悪化）、6. 瀬戸内海は豊かになったのか、7. 今後の方向性と取り組むべきことについてのお話がありました。
- 今後の取り組むべきことについては、「食べたり食べられたりする関係」の中で正常な生態系と生物多様性が維持されること、生物がその環境の中で世代交代を繰り返しながら生活を営み続けることと、漁場・資源を守ること（生態系と生物多様性の保全・修復）、里海創生への課題解決（科学・技術面として、海洋生物の住処整備。環境管理として、漁民、利害関係者、行政、科学者の合意）。地域の知恵の発揮：地域社会と政府との相補的關係が必要と提言されました。

- ◆テーマ：こんなに捨てられている！
食べられる食品
- ◆講師：NPO 法人フードバンク岡山理事
三田善雄 氏



三田善雄 氏

- ◆日時：12月13日（土）13時～15時
 - ◆場所：オルガ5階スカーレット
 - ◆参加：33名
 - ◆内容：日本の食糧自給率は先進国の中でも低く、輸入に頼っている状況にも関わらず、まだまだ食べられる食品が日々たくさん捨てられています。その有効活用やそこから始まる人と人のつながりについてのお話がありました。
- 1年間に生産される食用農産物量は8,460万トン。年間の食品廃棄物量は1,760万トン。食べられるのに廃棄されている「食品ロス」の量は年間500～800万トン。
- まだ食べられる食品が捨てられているにも関わらず、私たちの周りでも、6人に1人は貧困状態とも言われる食べ物を必要としている人たちがいます。この食べ物と人をつなぐ活動が、フードバンクです。フードバンクによる食品ロス削減量は2013年で約40,00トン。
- 世界の食品廃棄は、FOAの報告書によると、農業生産から消費に至るフードチェーン全体で、世界の生産量の3分の1にあたる約13億トンの食糧が毎年廃棄されています。
- 食品廃棄物にかかる経済的コストは約7,500億ドル（86兆2,500億円/115円・\$）になります。
- フードバンク岡山の活動は、2012年11月発足し、食品提供（寄付）は、個人・団体等14件（企業9社）、年間約29トン、食品利用（受取り）団体は89団体にのびります。
- 廃棄物の有効活用やそこから始まる人と人のつながりについて改めて考えてみましょう。

市民のための環境講座開催報告

- ◆テーマ：岡山県の気候変動について
- ◆講師：岡山地方気象台次長・黒岩康夫氏



黒岩康夫氏

- ◆日時：1月10日（土）10時～12時
- ◆場所：オルガ5階スカーレット
- ◆参加：34名
- ◆内容：岡山県の地勢と気候特性、用語の解説、気候のしくみ、近年の日本の異常気象、地球の気候はどう変化してきたか、地球が誕生してからの気候変動、温室効果とは、主な温室効果ガスとは、私達の暮らしが二酸化炭素を増加させている、温室効果ガスを増やすもの（二酸化炭素・メタン）、過去一千年の北半球の年平均気温の変化、世界と日本の気温・降水量の変化、植物からみた日本の気候変動、岡山の気温・降水量の変化、岡山のさくらの開花日の変化、日本の将来の気候、西日本太平洋側の気温・雨の将来予測、気象庁の取り組み、最近の話題一大雨による気象災害・特別警報などについての解説がありました。

最後に、自然災害と向き合う姿勢として、日本にいる以上、様々な自然災害に遭遇するが、人は「自分が災害に巻き込まれる」とは、なかなか考えられないもの（大雨警報が出ているけれどもこれまでも大丈夫だった、周りの人も逃げていないので大丈夫だろう…）であり、根拠も無く、自分は安全と考えてしまう傾向がある。災害に巻き込まれてから「まさか、災害が起きるとは思わなかった」では遅い。自然に対して謙虚な姿勢で、いつでも心構えをしておくこと、自然災害から命を守るためには、「最新の情報等を利用して、自分で判断し、身を守る行動がとれるようにすること」が必要とまとめられました。

- ◆テーマ：PM2.5について
～国境を越える汚染物質
酸性雨、光化学スモッグ、黄砂～
- ◆講師：岡山理科大学理学部特任教授・野上祐作氏



野上祐作氏

- ◆日時：1月24日（土）10時～12時
- ◆場所：オルガ5階スカーレット
- ◆参加：34名
- ◆内容：Particulate Matter（粒子状物質）とは何か、2.5は何を意味するのか、一口にPM2.5といっても、自然由来のもの人間活動に由来するものがあり、その実体は様々であり、国内でも晩秋に見られる田んぼの野焼きなどもPM2.5を発生させ、季節によってもPM2.5の中身が異なるということから、その測定方法、連続測定方法、大気中のPMのサイズ分布、今どうして騒がれているのか（呼吸器系疾患や肺がんを誘発する恐れ）、最近話題になっているCOPD（慢性閉塞性肺疾患、肺気腫と慢性気管支炎を統一したもの）について、PM2.5の発生機構、成分組成、炭素成分の分類、発生源別寄与割合の一例（CMB法、暫定）、光化学反応による二次粒子や光化学オキシダントの生成、酸性雨はどのようにしてできるか、黄砂の発生と輸送、日本のSPM（継続測定局）とPM2.5濃度の経年推移、環境基準（日本、WHO指針、中国：2012年2月に新しい環境基準公布、アメリカ：2013年3月強化）、PM2.5による汚染の現状及び予測に関する情報等についての解説がありました。

最後に、「PM2.5が気になる方は、自己防衛策として、岡山県のホームページ『大気環境の状況』などから自分で汚染の状況や予測に関する正しい情報を入手し、自分でその対応を具体化することが大切」とまとめられました。

岡山野生生物調査会

『ワイルドライフ ウォッチング』

岡山野生生物調査会は、岡山の自然・野生生物に興味を持つ人と、地元住民が、共にフィールドワーク（野外調査）を体験したり、いろいろな経験や知識を持つ専門家とが協働で活動をしたりすることで、身近な自然のすばらしさや地域の人々の経験と豊かな文化等を「たからもの」として共感・共有することを目的としています。

年間の主な活動として、1月野鳥観察会、2・3月春の山野草観察会、4月ゲンジボタルの幼虫の上陸観察会、6月ウミボタル、ゲンジボタル、ヒメボタルの観察会、9月オオシロカゲロウ大発生の観察会・調査、10月宇甘川・大野川流域生き物調査会、11月ヤマトビイロトビケラの調査・観察会、等々の調査や観察を地域の方々や興味や関心のある方、研究者（団体）と連携を図りながら行います。

また、これらの活動は、多くの市民に呼びかけるとともに、その結果や成果をいろいろな機会や方法によって説明・発表することによって、例えば、地域の方の思いを知り、関わったみんなの大切な財産として共有していくことができると思います。このような継続的な活動をすることで、自然や生物の「変化していること」「変化していない（残っている）こと」をより明確にしていくことで、身のまわりの環境に関心を持ち、その保全の意識を高めることができるのではないかと考えています。

《オオシロカゲロウ大発生の調査》

オオシロカゲロウは河川の中、下流域に生息し、1970年ごろから日本各地で大発生が報告されるようになった。旭川においても、例年9月上旬の日没後、橋げたの街路灯に群集し、その死骸が路面に厚く積り、通行する人や自転車、車のスリップ事故が心配されるほどで、マスコミに報道されて知る人も多い。しかし、いつ、どこまで（上流域に）発生しているのか等、これまではっきりした記録や情報はなかった。そこで、発生の経過を上流域18か所の地点で調査した。大きな堰（せき）の湛水（たんすい）区間では下流から発生が始まり、旭川全体では、下流（岡南大橋あたり）から上流（湯原近く）まで、短期間に大発生していることが分かった。しかし、発生の早い場所があったり二度大発生があったりしたところもある。その究明が今後求められる。

今後、同時期に各場所で調査・観察できるようなシステムで、同時刻の観測を、多くの参加者によってすることができれば「旭川の宝物」となるはずである。



旭川のオオシロカゲロウ群飛

《宇甘川・大野川の生き物調査》

大野地区は、岡山市の山里である。尾根にはクマタカが舞い、初夏にはブッポウソウが営巣する。手入れされたスギ林や雑木林の中を歩くと「森林セラピー」を体感できる。そこから湧き出し流れる水は、岡山市の水源となる。子どもたちが安心して遊ぶことができる川がある。

6月には「ホタル祭り」も地域総出で行われる。大野地区はヒメボタルやその他にも、いろいろな生き物を見ることができる自然豊かな土壌がある。その豊かさを保ち、証明していくために活動を始められた。

地元の川の6地点を、ゲンジボタルの生態調査地点として、「生き物調査」に加えることにした。

このような共通の調査方法で（各季節に）調査が実施できることが、次代へ「宝もの」を残す確かな方法だと確信します。



大野川生き物調査の様子
今後の活動について

当会は、自然や生き物に興味や関心のある方、研究者と共に旭川から河口・児島湾までを観察・調査して新しい発見や感動を共有してきました。そして、今、児島湾の生物相に関心が向いています。多くの方の調査への参加をお願いします。

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

2015年『助成活動報告会』のご案内

～県下の環境と環境に関わる活動について、語り、考えましょう!～

岡山で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動紹介や、相互のネットワーク形成をとおり、地域での環境活動がより広がる機会になることをめざし開催します。

- ◆日時：6月6日（土）13時～16時
- ◆会場：オルガ5階スカーレット（岡山市北区奉還町1-7-7）
- ◆定数：50名
- ◆参加費：無料 ※資料の準備の都合上、要申込
- ◆申込：5月29日（金）までに下記「参加申込書」、または「参加申込書」の内容をご連絡ください。
- ◆内容：2014年度助成活動報告と参加者交流（質疑応答と各団体へおかやま環境ネットワーク役員から感想等）
※コーディネーター：青山勲代表理事

◆助成活動報告団体一覧

	団体名	企画名
1	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
2	千年の森づくりグループ	美咲町限界地区竹の粉碎・堆肥化推進
3	おかやまエコマインドネットワーク	～ボクらの未来のために～持続可能な社会の扉を開く映画会
4	旭川源流大学実行委員会	鏡野町富のオオサンショウウオ生息調査
5	岡山野生生物調査会	ワイルドライフウォッチング 岡山の野生生物はどうなっているのか？
6	中学高校環境研究会	ふるさと再発見！旭川まるごと探検隊～新庄川～中高生キャンプ
7	共存の森ネットワーク	アマモ場再生活動を通じた人材育成
8	あかいわエコメッセ	第16回あかいわエコメッセ（環境企画展）
9	里海づくり研究会議	カキ殻を活用したモザイク状エコトーン創生技術の開発
10	おかやまコープ備北エリア	倉敷科学センター見学

※2015年度助成事業への応募を検討されている皆様は是非ご参加ください。

※お寄せいただく個人情報は当財団事業以外の使用や第三者への開示などを行いません



公益財団法人おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7（オルガ6階）
Tel/Fax: 086-256-2565
E-mail: kankyounet@okayama.coop

..... 切り取り線

助成活動報告会 参加申込書

フリガ 氏名		電話 番号	
住所	(〒 -)		
E-mail		団体 名	※個人の方は記入不要です

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

2015年度『市民のための環境講座』

	日程	テーマ・概要	講師
1	5/22(金)	アマモ再生教室①「現地観察会と取組学習」※10～12時、船に乗ります	神島寺間・見崎里浜づくり代表
2	10/16(金)	アマモ再生教室②「育苗キット製作体験」※10～12時	森中憲治氏
3	1/24(日)	アマモ再生教室③「苗の定植体験」※6～8時	※会場：笠岡市・見崎公会堂
4	9/5(土) 13～15時	「捨ててはいけない!～食品ロス問題を考える～」今日、世界の穀物需要が逼迫しているといわれ、世界の生産量の3分の1にあたる13億トンという食料が毎年廃棄されており、食品ロスの削減は世界的にも大きな課題となっています。私たちの行動を見直しどのように「食品ロス」問題に取り組むべきか考えます。	岡山市エコ技術研究会理事 稲見圭紅氏
5	10/2(金) 18時30分～20時	「公正を実現しつつ豊かで持続可能な社会へ～全体(限度)をつかむことの大事さ～」市民運動の世界の歴史や、地球史を振り返り、問題を見極め、今後を展望します。	元岡山大学准教授 白井浩子氏
6	10/3(土) 10～12時	「環境とは何か」近年、人間社会と人間生活は環境と不可分に結びついているのが広く理解されてきました。しかし、「環境」の本質については未だに正しく理解されているとは言えず、環境問題を正確に理解し、的確な対策を考えるために環境の本質について解説します。	就実学園理事長 千葉喬三氏
7	11/7(土) 10～12時	「環境を知るための市民の化学」環境を正しく理解するためには、常識としての化学の基礎知識は必要です。例えば、汚染物質の量的な話をするとき、その単位を知っていなければ、議論の中に入っていけません。このような話を分かり易く解説します。	岡山理科大学理学部特任教授 野上祐作氏
8	12/12(土) 13～15時	「瀬戸内海の水産資源を取り戻す(仮)」近年の岡山県海域の環境特性と課題について理解し、水産資源を取り戻すための施策について紹介します。	岡山県農林水産総合センター 水産研究所職員
9	1/30(土) 10～12時	「瀬戸内海の環境変化」瀬戸内海は高度経済成長期に「死の海」と言われるほどその環境は悪化していましたが、瀬戸内法制定以降、赤潮発生件数が減少するなど、水質環境は改善されてきました。しかし、一方では漁獲量の低迷に悩まされています。今、「きれいな海」ではなく「豊かな海」が求められています。一緒に在るべき姿について考えます。	香川大学農学部教授 多田邦尚氏
10	2/13(土) 13～15時	「環境問題を捉える視点 ～参加型講座～」環境問題の解決が難しいのは人により環境問題の捉え方が違うためです。環境問題の本質を見据え、本当の豊かさとは何かを考えながら、環境問題の解決策について議論します。	吉備国際大学社会科学部教授 井勝久喜氏
11	2/27(土) 10～12時	「持続可能な社会の構築に向けて ～自然と人間の共生～」昨年10月、11月に岡山と名古屋で「ESDの10年最終年合(ESDに関するユネスコ世界会議)」が開催され、世界から1000人以上の人が集まり、岡山、愛知宣言が採択されました。講座では、ESDとは何かについて考え、重要な概念の1つ「自然と人間の共生」について考えます。	岡山大学名誉教授 青山勳氏

- 会場：第1～3回は笠岡市見崎公会堂（笠岡市神島840）、第4～11回はオルガ5階（岡山市北区奉還町1-7-7）
- 受講料：無料、必ず事前にお申込みください。定数（第1回のみ20名、他は40名）を超過し参加いただけない場合のみご連絡します。
- ※本講座は「岡山県生涯学習大学連携講座」として開催します。第1～3回は、神島寺間・見崎里浜づくりと生活協同組合おかやまコープ井笠エリア共催、第4回は岡山市エコ技術研究会との共催で開催します。お寄せいただく個人情報は当財団事業以外の使用や第三者への開示などは行いません。



公益財団法人おかやま環境ネットワーク

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7

TEL/FAX:086-256-2565

E-mail :kankyounet@okayama.coop

..... 切り取り線

2015年度『市民のための環境講座』参加申込書

フリガナ 氏名			住所							
電話			〒							
FAX			携帯電話							
			E-mail							
参加申込日に○を	5/22	10/16	1/24	9/5	10/2	10/3	11/7			
	12/12	1/30	2/13	2/27						

2015 年度第 1 回体験プログラム

『児島蛍遊の水辺・由加ホタル観察会』

自然にふれ、楽しみながら環境のことを考えるきっかけをつくることを目的に開催します。

ホタルの観察を通し、いきもののいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、くらしと自然環境の密接な関わりを理解しましょう！ 奮ってご参加ください！！

※ホタル出現の最盛期より、早目の開催となります。また、ホタル観賞の観光企画ではありませんので、予めご了承ください。

参加者募集

お申しいただいた方には、別途詳細案内を郵送します。

- ◆日時：5月30日（土）18時30分～23時（予定）
- ◆行先：倉敷市児島「蛍遊の水辺・由加」
- ◆内容：「蛍遊の水辺・由加」での観察：水辺の生態系に配慮した石積護岸の水路に沿って0.7kmの遊歩道があり、5月下旬から6月中旬にかけてホタルの幻想的な舞いを観賞することができます。
- ◆講師：岡本勇氏、生田岩雄氏
- ◆定員：45名 ※全員バスで移動します
※応募者多数の場合は抽選、おかやま環境ネットワーク個人会員を優先します。参加の可否は郵送にてご連絡します（当選者には詳細案内を郵送します）。
- ◆申込：5月1日（金）までに下記参加申込書を郵送、ファックス、Eメールのいずれかでお申してください。申込後のキャンセルはご遠慮ください。
- ◆応募資格：小学3年生以上の方、未成年者は保護者同伴、大人のみ参加可
- ◆参加費：1人500円（年齢関係無）、おかやま環境ネットワーク個人会員とその同居家族は無料、年会費2,000円



イメージです

◆スケジュール予定

※交通事情等により時間は前後する場合がありますので、予めご了承ください。

- ・18：30 オルガ前出発（北区奉還町1-7-7）
- ・19：30 コープ倉敷北出発（倉敷市宮前38）
- ・20：30 現地観察会
- ・22：00 現地出発～コープ倉敷北～オルガ

◆持ち物：ライト（懐中電気）、歩きやすい靴

◆主催：（公財）おかやま環境ネットワーク
生活協同組合おかやまコープ倉敷エリア

◆協力：倉敷市児島・蛍遊会

◆お申込は



公益財団法人おかやま環境ネットワーク

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7（オルガ6階）

Tel・Fax：086-256-2565

E-mail：kankyounet@okayama.coop

※お寄せいただく個人情報とは当財団事業以外の使用や第三者への開示などは行いません。

切り取り

『児島蛍遊の水辺・由加ホタル観察会』 参加申込書

代 表 者	フリガナ 氏名	年 齢	電 話 番 号			
	おかやま環境ネットワーク2015年度個人会員ですか			はい・いいえ・入会希望		
	住所	(〒 -)				
集 合 場 所			オルガ・コープ倉敷北			
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳	
フリガナ 氏名	年 齢	歳	フリガナ 氏名	年 齢	歳	

2015年度体験プログラムのご案内

※各企画共通事項

- ◆応募者多数の場合は抽選、おかやま環境ネットワーク個人会員を優先します。参加の可否は郵送にてご連絡します（当選者には申込締切後約1週間後に「詳細案内」を郵送します）。
- ◆参加費：1人500円（年齢関係無）、おかやま環境ネットワーク個人会員とその同居家族は無料（年会費2,000円）
- ◆応募資格：小学3年生以上の方、未成年者は保護者同伴、大人のみ参加可。
- ◆申込：下記参加申込書を郵送、ファックス、Eメールのいずれかでお申込ください。
- ◆スケジュール予定：交通事情等により時間は前後する場合がありますので、予めご了承ください。

『海ホテル夜間観察会』

- ◆日時：7月11日（土）18時～23時30分
 - ◆行先：倉敷市大浜海岸（鷺羽山下電ホテル前）
海ホテルなど夜の海辺生物観察
 - ◆定員：40名 ※全員バスで移動します。
 - ◆申込締切日：6月19日（金）
 - ◆スケジュール予定
 - ・18：00 オルガ前出発（北区奉還町1-7-7）
 - ・19：00 コープ倉敷北出発（倉敷市宮前38）
 - ・22：30 コープ倉敷
 - ・23：30 オルガ着（予定）
- ※自家用車での参加はできません。

『旭川まるごと探検隊』

～蒜山の百万年の自然の歴史を調べよう～

- ◆日時：8月9日（日）8時～18時
 - ◆行先（予定）：珪藻土露天堀場・津黒ふれあいの里
山乗溪谷・湯原ハンザキセンター等
 - ◆定員：40名 ※全員バスで移動します。
 - ◆申込締切日：7月10日（金）
 - ◆スケジュール予定
 - ・8：00 オルガ前出発（北区奉還町1-7-7）
 - ・18：00 オルガ着（予定）
- ※自家用車での参加はできません。
※昼食持参、弁当の注文（1個500円）もできます。

『高島干潟 いきもの観察会』

- ◆日時：8月12日（水）13時～17時 ※現地集合 ◆場所：児島湾高島干潟（新岡山港すぐ南の小島）
- ◆集合場所：新岡山港 ◆定員：20名 ◆申込締切日：7月17日（金）
- ◆スケジュール予定 集合13：00岡山港集合、解散17：00（予定）

- ◆お申込は 公益財団法人おかやま環境ネットワーク 〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7（オルガ6階）
Tel・Fax：086-256-2565 E-mail：kankyounet@okayama.coop
※お寄せいただく個人情報は当財団事業以外の使用や第三者への開示などには行いません。

..... 切り取り

代表者	刀ガナ氏名	電話番号	
	おかやま環境ネットワーク2015年度個人会員ですか		はい・いいえ・入会希望
	住所（〒 - ）		
『海ホテル夜間観察会』 参加申込書		集合場所	オルガ・コープ倉敷北
刀ガナ氏名	年齢 歳	刀ガナ氏名	年齢 歳
『旭川まるごと探検隊』 参加申込書		弁当	要（ ）個・不要
刀ガナ氏名	年齢 歳	刀ガナ氏名	年齢 歳
『高島干潟いきもの観察会』 参加申込書			
刀ガナ氏名	年齢 歳	刀ガナ氏名	年齢 歳

2015 年度助成団体決定 しました

2 月理事会にて、2015 年度助成団体が決定しました。

以下、団体名と企画名です。

1. あかいわ美土里の和「里山再生プロジェクト」
2. アユモドキ里親会「アユモドキ教本作成プロジェクト」
3. 児島湾研究会「児島湾漁民の特異性調査・冊子作成」
4. 千年の森づくりグループ「千年の森—みんなで楽しめるビオトープの森つくろう！」
5. あかいわエコメッセ「第 17 回 あかいわエコメッセ（環境企画展）」
6. 岡山野生生物調査会「旭川河口域及び児島湾の生物調査」
7. 中学高校環境研究会「旭川源流域での生き物・地史調査」
8. 旭川源流大学実行委員会「旭川流域のオオサンショウウオ調査及び市民観察会」
9. 里海づくり研究会「沿岸海域における物質循環の促進～カキ殻に増殖した動物群集の物質循環機能の解明～」
10. 共存の森ネットワーク「アマモ場再生活動と日生の漁食調査を通じた人材育成」
11. おかやまコープ井笠エリア「今の暮らしを見直し、環境にやさしい暮らしを広めよう！」

※本誌 P.8 に掲載しておりますが、2014 年度に助成を受けた団体の活動報告会を開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、是非お気軽にご参加いただき、各団体の活動を聞いてみてください。

おかやまホタルフォーラム 当日配布資料同封について

12 月 6 日開催の『おかやまホタルフォーラム』当日配布資料を、会員の皆様に同封しています。ご査収ください。

ニュースへのチラシ等の 同封に関するお知らせ

おかやま環境ネットワークで年 4 回 (5・7・11・3 月発行予定) 会員の皆様にニュースを発送していますが、会員団体の各種イベントのチラシ等を同封することができます。

同封希望がありましたら、発行前月の第 2 週末までに事務局へご連絡ください。

※メールニュースは毎月第 2・4 水曜日を基本に発行しています。メールニュースへ掲載希望がありましたら、毎月第 2・4 月曜日までに原稿を事務局に送信ください。

ホテル団体交流会の ご案内

団体あるいは個人でホテルの保護、復活、再生を通し、環境保全活動をすすめる取り組みの交流をすすめています。

4 月 18 日 (土) 10 時～12 時、オルガ 5 階会議室にて開催し、県内各地の取り組み交流をすすめます。どなたでも参加できます。

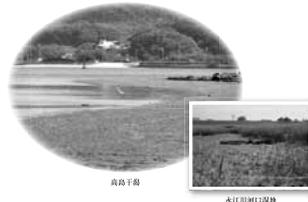
※参加される際には、資料の準備のため事前にお申込ください。

おかやま環境シンポジウム 当日配布資料同封について

1 月 31 日開催の『おかやま環境シンポジウム』当日配布資料を、会員の皆様に同封しています。ご査収ください。



岡山県内の環境活動のネットワークを促進させるため、市民、団体、事業者、研究者、行政等が集い、情報交換、交流を図ります。
また、岡山県から岡山県産品の産地を巡り、身近な産品としてふれあい、様々な利用してきました。一方で、干拓や埋め立てが盛んに行われ、それは人間生活の持続性を脅かすことにつながります。
今回は、「干拓後の自然環境」をテーマに、干拓の役割や機能、その重要性、保全等について考えます。



日時：2015 年 1 月 31 日 (土) 10:00～12:30
会場：オルガスカーレット
主催：(公財)おかやま環境ネットワーク・自然環境部会

メールニュース会員 募集中

おかやま環境ネットワークの情報や、会員団体のイベント情報等を掲載しています。配信希望の方はメールにて、件名：『メールニュース配信希望』とし、メールアドレス・お名前 (必須)、所属団体・会社名 (任意) を送信してください。

現在 1,345 名にご登録いただいています。

里海づくり推進部会 メンバー募集中

15 年度「里海づくり推進部会」を新設し、県内の諸活動の交流や、学習企画等の具体化を通し、ネットワークを拡げ、岡山県下の取り組みの推進を図ります。

※部会開催日は、メンバー内で相談の上、定例開催します。

※初回日程は個別ご案内します。

※部会メンバーに登録いただくと、参加交通費実費を支給します。

※登録ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

会員 募集中

おかやま環境ネットワークは、皆様からの会費、寄附、ボランティア活動で支えられています。ぜひ会員となり、活動をご支援ください。

【年会費】

個人・団体：2,000 円

企業等：20,000 円

学生：無料 (大学生、大学院生、高校生、就職時は対象外)

.....
: 新年度会費振込用紙を同封して
: おりますので、お振り込みく
: ださいませよう、お願いいたし
: ます。
.....

発行：公益財団法人おかやま 環境ネットワーク

〒700-0026

岡山市北区奉還町 1-7-7 (オルガ 6 階)

TEL/FAX 086-256-2565

E-mail: kankyounet@okayama.coop

HP: http://www.okayama.coop/kankyounet/